

公教育のけん引者が教室

県教委の課長、市教委の次長などを歴任し、公立学校教育をけん引してきた元校長が東日本大震災をきっかけに、学習塾を開業した。教科書を主な教材として、学校の授業を補うとともに、塾生の進路希望をかなえることを

この塾は、千葉県教は教科書を広げながら、発達上の特性に。母子家庭の子も委教育政策課長、船橋市、学校で使うワークより学校の授業に苦手も多いという。市教委教育次長などをブックに鉛筆を走らせ、感を持つ子も通って、時代をさかのぼると務めた村瀬光生さんが定年退職後の2012(平成24)年に、同県浦安市内に設けた。「21世紀寺子屋塾」と名付けた。

塾生は小学校2年生から高校生まで60人ほど。元校長。村瀬さん。教室は浦安駅から徒歩1分ほどのビル4階にある。11月下旬の水曜日。午後4時を過ぎると、塾生が少しずつ集まり始めた。夏期や冬期の講習を除くと、原則として一斉授業は行わない。3教室のうち2教室は1人で学習に集中できるよう、ついでに一方、長期で仕切っている。塾生

講師の多くは元校長。村瀬さん。教室は浦安駅から徒歩1分ほどのビル4階にある。塾生を数いる。塾生を見守り、声が掛かると助け舟を出す。高校受験、大講習を除くと、原則として一斉授業は行わない。3教室のうち2教室は1人で学習に集中できるよう、ついでに一方、長期で仕切っている。塾生

教科書中心に宿題など支援

千葉・浦安市で目指す。公立学校教員の授業改善に力を尽くしてきた一方で、若手教員の増加、授業準備時間確保の難しさなどを背景に、課題が大きいこともよく知る塾長。受講料は安く抑え、誰もが学校の授業についていけるよう心を砕く。

学校の教員が塾を敵視していた頃があった。塾で学校の学習内容を先に学んだ子どもたちが学校の授業をおろそかにしたり、学校の定期試験の過去問題を塾が集めて塾生に提供したりといった時代があった。高校入試の判定材料もわたって塾で勉強しているが、実際に90分計画も描いていた。現場に立つ道を選んだ。塾生が多い。5時間に力発電所事故により、塾生が力を入れている。塾生が多い。5時間に力発電所事故により、塾生が力を入れている。塾生が多い。5時間に力発電所事故により、塾生が力を入れている。

ともなる定期試験。過去問題提供は今もあるらしい。そこに憤りを感ずる村瀬さん。塾では提供しない。普段の学校の授業を大切にしよう。塾生を後押しする。講師になってもうこの塾生が力を入れている。塾生が多い。5時間に力発電所事故により、塾生が力を入れている。

東日本大震災が起きた年、村瀬さんは船橋市立の小学校で校長を務めていた。定年退職後、退職後、ついでに一方、長期で仕切っている。塾生

東日本大震災が起きた年、村瀬さんは船橋市立の小学校で校長を務めていた。定年退職後、退職後、ついでに一方、長期で仕切っている。塾生

東日本大震災が起きた年、村瀬さんは船橋市立の小学校で校長を務めていた。定年退職後、退職後、ついでに一方、長期で仕切っている。塾生

地域を支える



流通経済大学准教授

坂野 喜隆



市民、企業、行政、NPOなどの多様な主体が協働して統治を行う(ローカルガバナンス)が深化している。今後も、ローカルガバナンスの時代が続くだろう。今回は、東京都品川区の実学教育を例に採り、教育におけるローカルガバナンスの在り方

63

と教育

業がブームを構える。子ども長との二人三脚により、日に来た後、促された教委事もたは年収・家族構成が本中から注目されていた。務局が視察に来る。JAの定められた架空の社会人とその中で、道徳の教育と特別活動などを一つにして、アノサポートを受け、家賃、子ども自身が人生を充実させる。自治体議員の情報収集も、自立行動力が垣間見られ、これからの自治体の教育に力が必要であることが分かる。

お答えします 児童委員の悩み。主任児童委員をしていただきます。ボランティアで関わっている中で、悩んでいるお子さんと話す機会があります。聞いてみますと、「母と妹がよく出掛ける。私も行きたい。私は小さい時に、連れて行ってもらうていな」とのことです。どんな背景があるのかあまり分かりませんが、少し教えていただくと、妹さんに、障がいがあるようでした。お母さまは、一人のお子さんが気になっておられる状況下、お姉ちゃんも、寂しさに耐えているように思いました。

地域社会で活動する際のお悩みをお寄せください。経験豊かな03・3280・7050 電子メール henshu@kyoiku-press.co.jp

令和時代の塾と学校



東日本大震災が起きた年、村瀬さんは船橋市立の小学校で校長を務めていた。定年退職後、退職後、ついでに一方、長期で仕切っている。塾生

読みどころのご紹介 民見 政府が「子供の貧困対策大綱」を改訂しました。柱の一つは高校中退対策。中退後も就学支援金相当額を受けられる制

の分校の位置付けで、市が運営する昼間定時制高校があります。分校の生徒は全国から募集しているそうです(9面)。農業後継者の育成に力を入れています。寄宿舎もあります。

未来教育シンポジウム

いま家族の形は様々でなく、親子の関係もさまざまです。そのため子育てがとてもむづかしい時代になっています。「子育ては『孤育て』」との声さえ聞こえてきます。いま自分の子育てに、不安や孤立感を覚え



「親」に「なに」を「なす」